

市区町村名	愛媛県松山市	担当部署	松山市選挙管理委員会
		電話番号	(089) 948-6619

1 取組事例名

・若者と考える、投票率向上プラン

2 取組期間

・平成25年度～（継続中）

3 取組概要

・大学内に期日前投票所を設置することに加え、学生支援スタッフ「選挙コンシェルジュ」や若者の支援団体「選挙クルー」を認定し、ともに選挙啓発を行うことで主に若年層の投票率向上を狙った。これまでの総花的な選挙啓発を一新し、若者目線による参画型の選挙啓発を行っている。

平成28年7月20日時点で、選挙コンシェルジュは高校生・専門学校生・大学生33人、選挙クルーはNPO法人や学生サークルなど12団体を認定している。

4 背景・目的

・松山市では平成25年度から全国で初めて大学内に期日前投票所を設置するなど、積極的に若者の投票率向上を図ってきたが、依然として投票率低下の問題があった。そこで、期日前投票所の運営や選挙啓発などに「若者目線」を取り入れ、投票率向上を図るためプランを作成した。

5 取組の具体的内容

時期	行ったこと
平成22年度	大学期日前投票所の企画
平成23年12月	愛媛県が行う松山大学での選挙啓発ワークショップに参加→アンケート集計→約75%の学生が「大学内に投票所があれば利用すると思う」と回答
平成25年7月 参院選	松山大学にて全国初となる大学内への期日前投票所設置 ・20代前半の投票率+2.72pt
平成26年2月	選挙コンシェルジュ1期生4人を認定 （平成26年2月18日）
平成26年4月 市議選	・20代前半の投票率+0.63pt
平成26年9月～ 11月 市長・知事選	選挙コンシェルジュ2期生5人を認定 （平成26年9月12日） 愛媛大学内に期日前投票所を増設 ・2大学を合わせた投票者が1,000人を超える。
平成27年3月 27日	さまざまな若者への選挙啓発を行うため、協力団体を「選挙クルー」として認定 ・高校生、NPO法人、大学サークルなど多彩なメンバーで選挙啓発を行うための土台作りを始める。 ・9団体を認定、団体委員の合計は240人程度（現在12団体）

時期	行ったこと
平成27年5月～	【選挙コンシェルジュや選挙クルーと連携した活動】 ・高校などでの主権者教育 ※平成27年度は、主権者教育イベントを40回開催し、参加者10,000人を超える。
平成27年12月～ 平成28年3月末	選挙コンシェルジュ第3期生25人を新たに迎え、新体制が発足する。 ・高校生コンシェルジュの誕生 ・チーム制を導入、5チーム分かれに啓発企画を行う。
平成28年度	選挙コンシェルジュ第4期生4名加入 ・専門学生のコンシェルジュ誕生、アートディレクターとして活躍
平成28年 参院選	【選挙コンシェルジュと選挙クルーが連携した活動内容】 ・選挙CM作成・選挙カフェの実施・浴衣で街頭啓発・投票所×アート企画 ・大学生向けパンフレットの作成 ・高校生向けカウントダウンカレンダー・校内放送原稿作成 ・皆で行こう！投票キャンペーンの実施 など

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

・多くの若者を巻き込む参画型の啓発スタイルが特徴であり、選挙啓発に実効性・多様性をもたらす最大の強みである。具体的には、選挙啓発のセミプロとして位置づけている選挙コンシェルジュが主体的に企画立案をし、様々な機能を持った選挙クルーの力を借りながら実現している。例えば、選挙CM作成では、選挙コンシェルジュたちがコンテを作成し、その後の撮影や編集に至るまでの工程は選挙クルーである愛媛大学メディアサポーターズ映像部が担うなど、補完関係を築くことで、企画の実行性・多様性を担保している。

7 取組の効果・費用

- ・参院選について、平成25年以降、20代前半の投票率向上
 - ・活動をメディアやSNS等で発信することで、他の世代への啓発効果が期待できる。
- ※活動1時間当たり約1,100円の謝礼を支払っている。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

【問題点】

- ・選挙コンシェルジュの人員増に伴う人的資源管理業務の煩雑化
- ・選挙コンシェルジュのモチベーション低下

【課題】

- ・選挙コンシェルジュが啓発機能を発揮するための仕組み・仕掛けの見直し

【解決策】

- ・プロジェクトチーム制を導入、タスク毎にサブチームを編成し、役割などを明確にする。
- ・企画会議の曜日を固定し、出席率の向上を図る など

9 今後の予定・構想

・選挙コンシェルジュが高校生向けの主権者教育プログラムを作成し、自らが実践していく予定である。結果として、投票率向上に繋がるだけでなく、選挙コンシェルジュ自身の成長を狙う。

また、更なる増員を図り、チーム編成を見直すことで、協力関係だけでなく競争関係の状態を創り出し、切磋琢磨する中で新たな発想が生まれることを期待する。

10 他団体へのアドバイス

・若者は政治に興味や関心がないわけではないが、投票行動に繋げるには工夫がいる。つまり、少しだけ背中を押す必要があるように思う。

一連の取り組みから得られたとても大切にしているキーワードは、「参加」ではなく、「参画」である。他団体においても選挙コンシェルジュ制度を導入するなどし、若者目線の選挙啓発を行ってほしい。

11 取組について記載したホームページ

・ <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/senkyo/senkyoconcierge.html>

・ <https://www.facebook.com/matsuyamasenkan/>